

消化器外科紹介

— 当院での消化器外科腹腔鏡下手術の取り組み —



外科 部長 柚木 茂

当院消化器外科の腹腔鏡下手術は、平成4年4月の腹腔鏡下胆嚢摘出術に始まりました。腹腔鏡下手術は、小さな傷で侵襲が少なく、入院日数も短く、開始当初からその恩恵を痛感しています。

それから次第に適応を広げ、現在新しい手術室で、いろいろな臓器、疾患に対して腹腔鏡下手術をしています。その現状を臓器別に報告します。

胆嚢

最近では、より低侵襲な手術を目標に炎症の軽度な症例に対して、Reduced port surgery として臍部ポートと、右側腹部の3mmポートだけで行う手術をしています。

従来の腹腔鏡下手術と比較しても、ほとんど傷は目立たず、術後疼痛もありません。

ある患者さんは、術後1週間目にクラシックバレエの練習をして外来の診察に来られました。術後の回復の速さと創痛の軽減に有効な術式だと改めて思いました。これからも症例を選んで、積極的に小さな傷で胆嚢手術に取り組んでいきたいと思っています。

食道・胃

胃癌の腹腔鏡下手術は、リンパ節転移のない早期胃癌を対象として、幽門側胃切除術を施行しています。

また胃粘膜下腫瘍〔gastrointestinal stromal tumor (GIST)〕に対しても積極的に腹腔鏡下手術を行っています。

良性疾患では、食道アカラシアに対し

て腹腔鏡下手術を行い、食事ができなかった患者さんが、術後数日で食事ができて、大変喜ばれています。

小腸

小腸は可動性が良く、本来小さな傷での手術に適しています。腫瘍で腸閉塞となった症例や魚骨などにより膿瘍形成した病変を同定して、小腸切除をすることを目的に腹腔鏡下手術を行っています。

大腸

大腸は腹腔鏡下手術に適した臓器です。当院では大腸癌、大腸腫瘍、大腸憩室症(炎)、S状結腸過長症(S状軸捻転を繰り返す場合)などを適応としています。

当初はリンパ節転移のない早期大腸癌を適応としていましたが、症例を選んで、リンパ節郭清の必要な進行癌にも腹腔鏡下手術をしています。

大腸の鏡視下手術も他の鏡視下手術と同様に術後の回復は速く、食事も早期に開始することができます。

虫垂

腹腔鏡下虫垂切除も次第に増加しています。緊急手術の場合もありますし、炎症が治癒して、再発予防として待機的に手術をすることもあります。

創部が小さく、創痛も少なく、術後経過が良いので、患者さんに大変満足いただいています。

そけい 鼠径ヘルニア

鼠径ヘルニアの腹腔鏡下手術は、最近になって再開しました。創部は小さく、術後神経痛も少なく、有効な術式と考えています。

腹腔鏡下手術の進歩は技術、ハードとも目覚ましいものがあります。新しい手術室で消化器外科チームとして、これからも積極的に腹腔鏡下手術に取り組んでいきたいと考えています。

腹腔鏡下手術



外科外来担当表

	月	火	水	木	金	土
午前	渡邊 柚木 木村真士	上平 加賀城 梅岡	波多野 河田 木村裕司	柚木 上平 波多野 古谷野	渡邊 河田 木村裕司	担当医
午後	波多野	手術	加賀城 梅岡	木村真士	手術	



写真左：手術室入口（壁一面にレイアウトされた松山城の写真とステンドグラスが入った扉が患者さんを迎えます。）

写真右：平成26年4月より新しくなった手術室（以前より広く、明るくなり、手術を行いやすくなりました。）